



指定の参拝口に厨子が運ばれて来る



天井が広く解放感のある参拝室



5階の安養院本堂には静謐な時間が流れる



大きな骨壺は2名、小さな骨壺は8名まで収納できる



葬儀や法要も行える客殿



ご本尊の寝釈迦像

「お墓事情に悩むすべての方に真の供養を、という住職の思いがありま

す。ひかり陵苑には、遺体安置、葬儀、納骨、法要まで全て行える複合型施設である事にも注目である。自分自身の終わり方を考え、遺された家族に思いを馳せ、故人と語り合いに来たいような「お墓」の理想形をここに見つける人もいる。あるいはお墓を引き継ぐ家族のいない人にとつては、歴史あるお寺での永代供養という安心感と安らぎを見出すだろう。

本堂の後ろの窓から見下ろす目黒の緑豊かな町並みに、安養院がこの地で1000年にも渡って積み重ねて来た、祈りの時間の深さを感じるのであった。

室内でありながら天井も高く、圧迫感のない静謐な空間。

最上階の5階には、安養院の本堂がある。ひのきの薫りが漂う本堂には、江戸時代から受け継がれて来た見事な寝釈迦像が祀られて

いた。歴史を刻んで来たお寺の荘厳な空気が満ちている。この安養院が1000年もの間この地で営み続けてきた「供養」を、必要としている多くの人に広げたいと、宗旨・宗派を問わずに受け入れる

す。ひかり陵苑に来られた半数以上の方は、ご自分あるいはご家族用に、生前に準備しておきたいと、お求めになられた。よき「終の棲家」を見つけたら、とてもよいお顔をしていただけました。住職の思いが確かに伝わったという嬉しさを感じます。一方で、すでに亡くなりになったご家族の納骨用や、遠方にあるお墓をこちらに引っ越された方たちもいらつしゃいます。それぞれの方にとっての「理想のご供養」の形を見つけて頂けるよう、お手伝いをしておりま



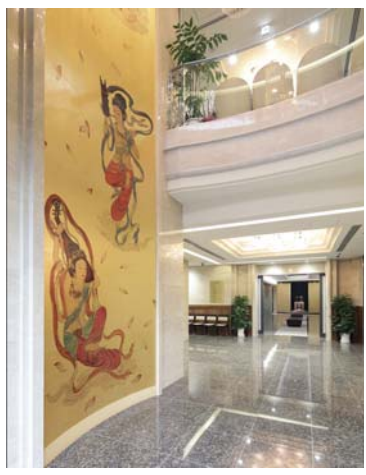
「ご先祖のお墓は田舎にあって遠すぎる」「東京に馴染みのお寺もない」「今さらどこかのお寺の檀家になるのは敷居が高い……」。加えて、都心部では深刻な墓地不足が続いている。現代のお墓事情、というよりも、そもそも「供養する」事

のハードルが、これほど高くなった時代はかつてなかったかもしれない。誰にも等しく訪れる「死」でありながら、その「供養」のありようが見えてこない。見えてこないのが、「死」と向き合って生きる事が難しい。そうした状況を憂いた住職の、一人でも多くの人に「真の供養を」という願いが「ひかり陵苑」の成り立ちを支えている。

看板が目に入る。目黒の静かな住宅地、目黒不動尊のすぐ脇に安養院の「ひかり陵苑」は建っている。明るいエントランスを一步入ると、参拝に訪れた人たちの穏やかな時間が流れていた。

参拝間口の広さや参拝室の設備、それぞれのニーズに応じて3種類の室内墓がある。手頃な価格でお参りしやすい1階に位置する「スタンダード」、より重厚感のある墓碑とゆつたりとした間口の「デラックス」。「特別個室」は参拝室が完全に個室になっており、プライベートが保たれる。いずれの場合も、指定の参拝室に遺骨が収められた厨子が運ばれて来て、遺族や関係者はそこで故人と対面する。

1000年の歴史あるお寺が開いた永代供養の扉



伝統と革新が融合した都市型お墓の理想形

安養院ひかり陵苑

キーワードで見る最新事情
霊園・永代供養

1000年もの時を刻んで来た臥龍山・安養院が、現代に「真の供養を」との思いで開いた室内型の永代供養墓「ひかり陵苑」。平安時代から江戸時代、激動の昭和を経て祈り続けて来た歴史ある寺が見出した、現代の「理想の供養」とは。